



ワインカントン競馬場のコースとファンエリア



トーントン競馬場のパドックとスタンド



チエルトナム競馬場の内馬場観戦エリアから スタンド側へ戻る観客たち

世界旅打ち気分

●第6回・イギリスの障害

須田鷹雄

写真のカラー版は
<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>の
#グリーンファーム会報#2018年6月号
でご覧いただけます

<https://www.instagram.com/sudatatakaoshoten/>

場所としては、正直などこの田舎。駅の周辺はともかく、競馬場の周りは煙しかない。その周りに超横長レイアウトの競馬場が忽然として現れる。

2枚目の写真は、ローランドから電車で西に2時間半ほど行ったところにあるトーレン・トンという競馬場。ここはどういうべきさつで行ったのかも記憶が定かでない。おそらくその日は開催しているのがここだけだったのだと思う。ちなみにここもコース横切り制度のある競馬だ。

そんな素敵なか競馬場だが、ここではちよつと変わつた写真を使つてみた。これは内馬場の観覧席アリアに行つていただきお客さんが、メインスタンド側に戻るといふのである。イギリスの障害競馬場は、このようにコースを横切れるといふがけつて、アーチルトナムのような大競馬場でも可能。横切るといふことは、「コース上に立てる」ということ。」RAでも「コース開放といふのはあるが、いつ行つても横切れるといふのは競馬好きにはたまらないものが、競馬好きにはたまらないものがある。

1等と2等の設定があるので、が、おすすめは断然1等だ。全土。4日間タイプを例にとると、現在の価格は1等が4万円強で2等が2万7千円。この差なら1等がよいに決まっている。また、日数が長いほど一日あたりの単価が安くなるので、長い休みが取れる人やリタ

連載6回目にして、競馬の本場・イギリスの話をしてみようと思う。ただ私は、実はイギリススタービーに行つたことはない(エブソム自体はかるうじてある)。そもそも大レース観戦主義ではないので、王道を行くような話にはあまり強くなかった。今回は、シーズン」ということを考えると真逆の話だが、障害の開催についてお話ししてみよう。

その前に、旅打ちでイギリスを巡る場合のおすすめアイテムとして、プリットレイルバスを御紹介したい。これは外国人向けの乗り放題鉄道バスで、ナショナルレイルが発行している。いくつかのタイプがあり、いちばん分かりやすいのは全土を対象にしていて連続日程〇日というものの。そのほかにフレキシータイプという「のべ〇日」と飛び飛びの日程で利用できるものや、スコットランド限定など地区を限

ただ私個人の思い出としていま
でも思い出すのが、送迎バスの不
便さとそれゆえに実現した他のフ
アンとのやりとりだ。

ウインカノトへの送迎バスが出
る駅は駅前になにもないところで、

「JRAはトーナメントに比べると競馬場としての重要度はやや上で、出走するメンバーもおそらくはまだまとはいえ、数年前のグランドナショナル優勝馬が出走していた。写真を見て分かるようにコースは広々しており、それでいて客とコースの距離感は近づないので、観戦を楽しめます。

タンドだ。しかもメンバー用のほう
が混んでいる。載せた写真はパドック
ク周回中ののでスタンドが混んで
はいないが、レース中はリにぎつ
りと観客が立っている。

私は競馬そのものが好きだけ
でなく「異常な競馬好き」の人たちも
好きなので、このような競馬場
を見るところが躍る。世界でどん
な事態が起きようともイギリスの
人たちは競馬を守ってくれそうだ
し、障害競馬も守ってくれそうだ
など勝手に感じたのがこの競馬場

そういう体験もまた、旅打ちの経験値を高めてくれるものではあるのだが。

鉄道の話が長くなつたが、まずはチエルトナム競馬場の話から入つてみよう。チエルトナムゴールドカップなど数々の大レースが行われる競馬場だが、私が訪問したのは大レースは行われない日だった。

イア後の長期旅行には最適。ちなみにシニア用の割引バスもあるので、定年後に長期イギリス旅行……といふ夢のようなプランにも向いていふ。

乗るときは基本的に予約は不要だし、バリデーターといってチケットに日付印を打ち込むだけ(その機械が駅にある)。座席に白いカードがささっているのは予約された座席なので、それが無いところを選んで座る。よほど繁忙期・繁忙路線でない限り席はある。

それより注意したいのは乗る号車だ。イギリスの鉄道にはクワイエットカーという静音車両があつて、その中では大人しく乗車していくことはならない。逆にいうと一般車両では騒ぎ放題なわけで、私は酔のラグビーチームが乗ってきてひどい目に遭つたことがある。まあ、それを知らずに乗つた車両に大泥

「全く知らない街の全く知らない店を活用できたのも、競馬ファンどうしのつながりがあったから」。そう云つたことも旅打ちの面白さだ。

ングで駅に着く。宅地で一時間どうしよう……と思ったら、一緒に下りたおじさん達が「ロンドン帰るの? ならいいよいで」。連れていつくれた先は、その時間一軒だけ営業しているパブ。おじさんは40分ほどをそこで過ごし、列車の来る少し前に出てこれまた一軒だけ開いているフイッシュアンドチップス屋で夕食を買って帰

い。 ほほ単なる住宅地。列車から降りてはみたものの、単なる宅地で本当にバスが来るのが不安でならない。そこでひとりだけ英國人が立っていたのだが、向こうがつかつかとやってきて「競馬場行きのバスってこでいいですかね?」。日本人に聞くなよ! とソコみたかったが適切な英語力が無いので「たぶん……」くらいの返事をするにとどまった。

帰りは帰りで発走時刻+バス時刻の設定が悪く、1時間に一本

行つてみていただきたい。どれだけ素敵な競馬場であるかについては、場内にちよこした「証拠」がある。イギリスにはレース「一アークラブ」という、競馬ファン協会、旅打ち協会のようなものがあるのだが、その会の認定したベスト競馬場賞に何度も輝いているのだ。地元のフアンもお墨付きの旅打ち先という

それゆえそんなに混んでいないだろうと思っていたらこれが大誤算。ロンドンから2時間強のチエルトナムス駅を降りた瞬間から、競馬客の多さを思い知らされた。駅からはバスで競馬場に向かうのだが、着いたら着いたで一度びっくり。入場券を買うだけで長蛇の列だ。早く入場したい客をあてこんだダフ屋も出ている。

それだけの列だから中に入つても人の多さに圧倒されるのだが、それ以上に圧倒されるのがコースの広さ。向正面が遠い上にコースのレイアウトが複雑なので、どう走るのか、初見だと見当もつかない。目を近い側に転じるとゴール前の坂がどれだけ厳しいかがよく分かり、英國障害馬のタフさを認識させられる。

その光景は日本では体験できぬものなので、機会があつたらぜひ